

# 平成19年度 竹原地区在宅ケア研修会

終末期在宅ケアに向けて～家で看取り、看取られること～

広島県地域保健対策協議会地域ケア促進専門委員会委員 大 貫 仁 士



広島県地域保健対策協議会の地域ケア促進専門委員会では、平成8年度より地域ケアについて、毎年テーマを決めて、県内4カ所で開催している。今年度は平成18年度から引き続いて、「在宅医療と末期ケアの促進」をテーマに研修することとなった。

標記研修会は、11月10日(土)午後3時より、竹原市大広苑で行われ、参加者116名は終末期在宅ケアの促進について研修を深めた。

開会に際して、竹原地区医師会の山下通隆会長から、医療・介護従事者だけでなく、家族・ボランティアが一体となり、地域全体でサポートする必要性がある旨の挨拶があった。その後、基調講演とシンポジウムが行われた。

## 1. 基調講演

### 患者から学ぶ在宅緩和ケア

津谷内科呼吸器科クリニック

NPO法人がん患者支援ネットワークひろしま

津 谷 隆 史

在宅死の必要性は叫ばれているが、あまり増えていない在宅ケアの現状、在宅療養支援診療所、在宅末期医療総合診療について説明した。

続いて、緊急時受け入れ病院の確保等、在宅ホスピスケアの条件を提示し、がん保険の上手な使い方、かかりつけ医に求められる在宅ケアのスキルについて話した。

最後に特定非営利活動「がん患者支援ネットワークひろしま」の活動状況に言及した。

## 2. シンポジウム

### (1) 病院の立場から

安田病院

杉原基弘

医療費削減という厚労省の方針から、病院のおかれている厳しい現状を述べ、在宅医療推進のために病院が必要なものを挙げて、地域格差によるマンパワー不足と経済的な問題で困難なことを説明、その上で、患者・本人・家族が自発的に在宅を希望するように地域全体の連携が必要である。

### (2) かかりつけ医の立場から

大貫内科医院

大貫達也

在宅療養支援診療所の医師として実践してい

る経験から述べると、在宅で看取った家族にはある種の達成感、満足感を見ることができると同時に、そのことが家族のその後の生き方にまで反映される。

### (3) 訪問看護ステーションの立場から

訪問看護ステーション竹の子クラブ

置名良子

肺がん告知を受けた患者の在宅死に至るまでの5カ月間を、患者本人・家族の思いと医療側(主治医・看護師・ケアマネジャー)の対応を経時的に報告し、24時間対応のための人材確保が今後課題である。

### (4) ケアマネジャーの立場から

聖恵居宅介護支援事業所 面谷直記

ケアマネジャーは、本人・家族の気持ちをありのまま受け止めて行動し、支援において利用者の気持ちの変化について行き、チャンスを見逃さないことが必要である。

また、利用者と支援を結びつけるだけでなく、あらゆる可能性を検討し、サービスのすき間を

埋めていくと同時に、家族の支援も大切である。

### (5) ボランティアの立場から

広島ホスピスケアをすすめる会 竹原支部

大石睦子

ボランティアは限りなく家族に近い存在として、家族の思いを代弁をしたり、花見・食事会・誕生会等を開いて、本人の希望、願いをできる限り早く叶えるようにしている。また、留守番・買い物・話し相手をして、家族の負担軽減に努め、家族のコミュニケーションの調整も行い、看取りの後の喪失・悲嘆を家族と共有して乗り越えるようにしている。

シンポジウムの最後には、ボランティアの援助を受けて、在宅で看取りをした患者家族からの発言もあった。

市内に公的地域拠点病院・在宅サービスのない竹原地区では、尾道方式の実現は困難であるが、根づきつつあるボランティア活動を生かし、地域一体となった終末期在宅ケアの実践は不可能ではないと考えさせられた研修会であった。

医療安全情報No.12 2007年11月

## 患者搬送中の接触

患者を搬送する際、天井などの上壁に接触しないよう  
点滴台等の高さの確認が必要です。

この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://jcqhc.or.jp/html/accident.htm#med-safe>

この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。